

再 評 価 調 査 書

整理番号 3

担当部局 土木部 道路建設課 内4424

1 事業概要

(1)事業名	地方道路整備事業	(2)名称	一般国道354号 谷田部東拡幅
(3)事業主体	茨城県	(4)箇所名	つくば市真瀬～つくば市大角豆
(5)採択年度	平成15年度	(6)完成予定年度	平成35年度
(7)事業目的	<ul style="list-style-type: none"> つくば市の渋滞ポイントである大角豆交差点の交通渋滞の緩和を図る。 常磐道桜土浦IC及び圏央道つくば牛久IC、つくば中央ICへのアクセス強化を図る。 つくば市の幹線道路を整備し、地域交流の活性化を図る。 		
(8)事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 道路延長：2,500m、計画幅員：35m/14m、4車線 用地買収、道路改良・舗装 		

2 再評価の理由

(1)再評価の理由	再々評価	(2)当初完成予定	平成30年度
(3)未着工・事業が長期間要している理由	谷田部東拡幅は、平成15年度から事業を進めているが、沿道は商業施設が多く、用地交渉が難航していることから時間を要している。		
(4)前回指摘事項に対する対応状況(再々評価の場合)	委員会の意見	対応状況	
	継続することが妥当である。	指摘を踏まえ、大角豆交差点を含む優先整備区間の用地買収を進めた。	

3 事業計画の変更

(1)完成年度の変更	平成30年度 → 平成35年度 5年延長
	【理由】沿道に商業施設が多く、用地交渉が難航していることから、完成年度が5年遅れることになった。
(2)事業内容の変更	【理由】
(3)事業費の変更	【理由】

4 進捗状況と今後の見通し

(1)事業進捗状況	全体	前年度	前年度まで	進捗率
事業量(m)	2,500	0	0	0%
事業費	工事費	2,080	0	0%
	用地買収補償費	7,620	6	14%
	計(百万円)	9,700	6	11%
(2)関連事業の進捗状況				
(3)今後の見通し	工事	用地等		
	交通渋滞の激しい大角豆交差点付近から整備を進める。	優先整備区間の未買収地の取得を優先し、早期完了を目指す。		

5 評価内容

(1)事業の必要性	<p>本路線は、県南西部を横断する重要な幹線道路であり、当該区間はTX開業や急激な沿線開発により、慢性的に交通量渋滞が発生している。特に県内有数の渋滞ポイントである大角豆交差点や、稲荷前交差点の交通渋滞の緩和に大きく寄与するものである。</p> <p>また、常磐道桜土浦IC及び圏央道つくば牛久IC、つくば中央ICへのアクセス道路としての機能も持つことから、事業の必要性は高い。</p>					
	社会情勢等の変化に関する指標1	計画時の状況	現時点での状況	社会情勢等の変化に関する指標2	計画時の状況	現時点での状況
	国道354号つくば市下広岡地内交通量	32,096台/日 (H11センサス)	37,271台/日 (H27センサス)			
(2)事業の有効性	<p>本事業の完成(国道354号の拡幅)により、整備なしの場合と比較して将来交通量が約150%に増加する中、通過時間で約2分の短縮図られ、常磐道・圏央道へのアクセス機能強化とともに、つくば市内の渋滞緩和が期待できる。</p>					
	効果予測に関する指標1	事業なし	事業あり	効果予測に関する指標2	事業なし	事業あり
		つくば市真瀬～大角豆間の通過時間(H42)	18分	16分		
	効果算定要因に関する指標1	事業なし	事業あり	効果算定要因に関する指標2	事業なし	事業あり
	将来交通量(H42)(つくば市大角豆)	23,500台/日	34,700台/日	将来交通量(H42)(常磐道桜土浦IC)	11,000台/日	16,400台/日
(3)事業の効率性	<p>ア) 主な効果 (B)</p> <p>①本路線の整備により、つくば市真瀬からつくば市大角豆間の2.5km区間において走行時間の短縮(約321億円)、走行経費の減少(約-37億円)、及び交通事故の減少(約3億円)が図られる。(計287億円)</p> <p>②常磐道桜土浦ICや圏央道つくば牛久IC・つくば中央ICへのアクセス機能が強化される。</p> <p>③つくば市街地の交通混雑が緩和されるとともに、地域の活性化に大きく寄与する。</p>					
	<p>イ) 主な費用 (C)</p> <p>①事業費 84億円</p> <p>②維持管理費 2億円</p> <p>計 86億円</p>					
	<p>主な効果のうち貨幣化が可能な①について事業の効率性を分析した結果は以下のとおりである。</p> <p>参考となる指標 B/C = 3.3</p>					
(4)地元の意向	現道はTX開業や急激な沿線開発により交通渋滞が激しく、また常磐道、圏央道のアクセス道路になることから整備要望が強い。また、国道354号整備促進協議会から早期整備の要望等を受けている。					
(5)コスト削減や代替案立案の可能性	再生材の活用によりコスト削減を図る。					

6 対応方針

つくば市内の安全で円滑な交通の確保や常磐道等とのアクセス機能を強化するためにも、事業を継続したい。

7 再評価委員会の意見

継続することが妥当である。

8 委員会の意見を踏まえた対応

部分供用による効果の早期発現に務め、期間内の完成を目指し、現計画で事業を進める。